

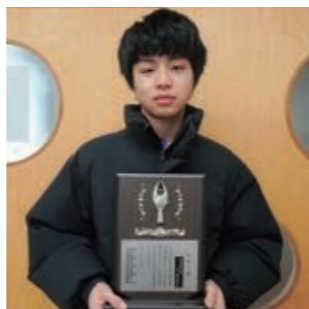


タウンレポート & スポーツの話題



12/17 はが路ふれあいマラソン

芳賀郡市内42.195kmをコースとした「はが路ふれあいマラソン」が開催され、全国各地から集まった約2,500人のランナーが出走しました。町内各地にエイドステーションが設けられ、梨やイチゴ、そばや豚汁などがふるまわれました。地域ボランティアや応援に訪れた皆さんからの声援やお囃子による応援もあり、大きな盛り上がりを見せました。



12/22 細野隼煌さんが日本学生科学賞入賞

細野隼煌さん(芳賀中2年生)
「目に見えない空気をしらべる一個体別CO₂処理能力の基礎研究―」
■日本学生科学賞栃木県大会 最優秀賞(知事賞)
■日本学生科学賞 入選1等



12/23 芳賀町町制施行70周年記念こどもフェス

水橋分館でこどもフェスが開催されました。このイベントは、子どもの人権や社会的養護に興味を持ち、周りの人を頼って子育てをするきっかけとしてもらうことを目的に開催されたもので、親子で楽しめるステージ発表やワークショップが行われました。参加者からは「楽しかった」「素敵なイベントだった」といった声があがりました。



1/9 農業士に荒井理さん、名誉農業士に齋藤恭子さん

荒井理さん(稲毛田)が農業士に、齋藤恭子さん(東水沼)が名誉農業士に認定されました。農業士とは、優れた農業経営を実践し、地域農業振興や農村活性化に意欲的に取り組んでいる農業者を県が認定するものです。農業者の社会的評価を高め、農業の担い手育成や地域の先導役となる活動を促進します。



1/10 新春賀詞交歓会

道の駅はがロマンの湯で、新春賀詞交歓会が行われ、町議会議員、自治会、農業、商工業などの代表者約90人が参加しました。大関町長の挨拶に続き、小林議会議長、国会議員、県議会議員の皆さん、田川商工会長から祝辞が述べられました。令和6年能登半島地震へのお見舞いや、町のさらなる発展を願う言葉がありました。乾杯は、町工業団地連絡協議会浦野会長の音頭で行いました。



宝くじ助成金で3自治会がお祭り用備品整備

宝くじの社会貢献広報事業として地域振興のために実施されている「コミュニティ助成事業」の助成金を活用し、祖母井・ハツ木・西水沼自治会がお祭り用備品を整備しました。お囃子用太鼓を新調したことで、地域での活動や交流の活性化、伝統文化の後継者の育成に一役買うことが期待されます。



「芳賀チャンネル」で町のさまざまな話題を放送中! 加入は宇都宮ケーブルテレビ ☎028(638)8092まで

はがの文芸

町文化協会では短歌・俳句・川柳の各種講座を開催しています。詳細は町民会館まで
☎028(677)0009

※敬称略

短歌 「芳賀短歌会」

海泳ぎ野生の熊が移動する
令和の異変今日の新エースに
岡田 ツヤ子(西水沼)

陽を受けて落葉踏みしめ散歩する
小春日和の日曜の午後
佐山 美代子(下高根沢)

俳句 「町民俳句講座」

陶窯に神符を貼りて釜始

阿久津 勝利(宇都宮市)

※「町民俳句講座」参加者

娘より婆孫曾孫お年玉

稲川 清子(与能)

川柳 「お楽しみ川柳」

他人でも穏やかになる子の寝顔

七井 章治(与能)

口論し大きく出たが後引けぬ

大谷津 眞記子(芳志戸)

子も老ゆも地域祭りの楽しみは
綿銘焼蕎麦あたり賑う
筒見 泰一(芳志戸)

わが畑の器量の悪きじやが芽を
ねんごろに煮て夕餉の卓に
鈴木 みき(東高橋)

一年のレシピ満載初暦

福武 幸子(下延生)

初筑波二峰くつきり野州晴

光岡 れい子(益子町)

※「町民俳句講座」参加者

お出掛けに洋服選びあれやこれ

高松 イク(下高根沢)

付き合ひも言葉出さずに目でサイン

加藤 秀男(市貝町)

※「お楽しみ川柳」参加者



あなたの声を聞かせてね! お便り待ってます!

●身近な出来事や町に関する要望・意見

増淵真由美さん(下高根沢)からの投稿

大河ドラマ「光る君へ」

千年の時をこえて、藤原道長の有名な歌「この世をば 我が世とぞ思ふ 望月の 欠けたる ことも なしと思えば」が、心に浮かんだ。京都のカフェで、ガイドブックを見ながら、ミルクたっぷりのアメリカノを飲んで、モーニングメニューを食べている。ミックスサンドをほおばりながら、平安時代に思いを巡らせる。

高松イクさん(下高根沢)からの投稿

新聞の記事が目にとまりました。

「誰かに成り代わって課題を解決することはできない」「いい人のふりをして、勝手に取り上げてしまわないこと」「人は覚えていすぎてしまう。ほどよく忘れて生きていくこと。」ということが書かれていました。そうなのかもしれない、と思いました。「言葉のやさしさに癒されます」

生き生き生涯学習友の会相談役

駿河富夫さん(稲毛田)からの投稿

日野原重明医師の著作を読んで

生きるというのは、死ぬその日まで自分の可能性をあきらめず、与えられた日々を仕事に全力で尽くすことだそうです。そして「人はいくつになっても変わることができる」「生涯現役でありたい」と書いてありました。

考え方を変え、与えられた仕事に全力を尽くすというのはとても大切なことですね。



高松イクさん(下高根沢)



鈴木モコさん(西高橋)